

大阪府立大学【全学教育研究組織】

日 時 平成24年7月23日(月) 10:30~11:30
場 所 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス A1棟3階 大会議室
出席者 <新大学構想会議>

矢田委員(座長)、上山委員、尾崎委員、野村委員、吉川委員
<大阪府立大学>
奥野武俊学長、高橋哲也高等教育推進機構長

■大阪府立大学から資料に基づき概要を説明 (大阪府立大学)

「資料1」組織図について説明。既存の学部については、23年度までの入学生でしばらく維持しないといけない。平成24年度から学域はこの4つの学域に編成。

機構等と書いてあるところは、今からお話する全学の組織として作ったもの。

その後、学域について話しながら、関連する学部・大学院についてはその都度必要なことを話させていただく。

まず、この機構等と書いてあるところは、高等教育推進機構、地域連携研究機構、国際交流推進機構、21世紀科学研究機構、学術情報センター、学生センター。学術情報センターと、学生センターについては、今は話ませんが、図書館機能や学生センター機能でございます。機構等について、高等教育推進機構、地域連携研究機構、国際交流推進機構、21世紀科学研究機構という順番で話させていただきます。

その前提に、まず「資料2」を見ていただきたい。先日、矢田先生から九州大学の例その他でお話がありましたが、教員の所属組織と教育組織を私どもも分離いたしました。

その分離の仕方が九州大学と似ているのですが、ちょっと違う形になっており、ここを前提に説明させていただきたい。

「資料2」を見ていただくと、左のほうは教育組織でございます。新しく作った学士課程組織というのが、現代システム科学域、工学域、生命環境科学域、地域保健学域という学域。

また、同時に従来の「学部」もしばらく維持していかなければいけないので学士課程としては学域と学部を並存しています。そして大学院が7つあります。また全学組織がございます。

この先生方をどういう風に所属させるかは右に書いています学術研究院という場所、場所というかバーチャルといえババーチャルですが、そういうものを作りました。先生方はここに第1学群が人文科学系、社会科学系、第2学群が機械系から始まるもの、第3学群が看護、リハビリ、第4学群がさっきいった左の(教育研究組織の)全学組織とあったもの、ここは部門と呼んでいます。これらに先生方は所属しています。

第2学群をみていただくと、ここは理系ですが、機械系から物質化学系までが工学系、応用生命系から獣医系までが大学院でいうと生命環境科学、物理系から生物系までが理学系研究科におおよそ合います。九州大学の場合は、大学院重点化をしており、全部教員は大学院に所属する形にしており、ここで全学がぴったりと合うが、私どもの場合は、全部大学院にすることは非常に難しかったこともあり、とにかく学術研究院という所属組織を作りました。

ここから、主担・副担という呼び方をしていますが、例えば機械系に属している〇〇先生は、大学院は工学研究科、学士課程は工学部と現代システム科学域を担当するといった担当を決めますが、そのときに主担、副担という言い方をしています。

第4学群のところに、高等教育推進部門というのが、全学の教養教育、共通教育を担当

する先生を配置。これは多くの国立大学の場合は、ここに10名とか20名ぐらいの人を配置して、あとは全学で委員会のようなものを作ってするということが行われていますが、府立大学の場合は、17年度に統合したときに、こういう高等教育を担う教員を配置する機構を作りました。教養教育を担当する人、全学の共通教育を担当する人、数学とか物理とか化学とかそういう人も入った組織です。

詳しくどんな風に人数の配置をしているかは、「資料2 - 」を見ていただきたい。

線が入り乱れているのは、いろんなところから配置しているという意味。真ん中に学術研究院があり、いわゆる教員の所属組織。先生方はどこかに所属しています。左は大学院、右は学域等にそれぞれ主担、副担で配置されています。

次に「資料3」を見ていただきたい。

高等教育推進機構には、トータル60人ぐらいの先生が専任で配置され、全学の共通教育を担当。もちろん全学の共通教育すべてを担当できないので、これらの人がマネージャーになって全学先生が集まって、初年次ゼミナールやFDとか語学教育とかを行っています。

こういった形で先生方を配置するのは、国立大学ではほとんどなくて、公立では北九州市立大学などがされているだけです。

次に、地域連携研究機構ですが、ここは従来からの産学連携とか生涯教育とかを担当。具体的には、地域活性化研究センター、地域福祉研究センター、女性学研究センター、地域文化研究センター、放射線研究センター、生涯教育センターなど、地域に結びついたところを全部いれています。

府立大学は国際交流が遅れておりましたので、国際交流推進機構というのを作りました。これから力を入れないといけないところです。

21世紀科学研究機構ですが、第1群から3群まで分かれています。第1群はバーチャルな組織、ここからスタートしました。看板だけでお金は出さない。自分の研究部門だけで作らない。他の分野の人を入れる。学外の人を入れることなどを条件にして、ここをベースにしてプロジェクトを獲得しにいったほしいという思いがこめられています。

少し進んで、第2群は学長が指名してチームを全学で作るものです。例えば、植物工場のチームや環境のセンターを作るとか。これはわずかですが予算が出ます。

もう一つ、第3群。観光産業戦略研究所やエコロジー研究所など。ここでは、人を雇って専任の教員を配置できるようにしており、外部資金を獲得するために広い分野をカバーする組織として作るものです。

「資料4」では、それらの産学官連携の成果としてでたものです。外部資金はこれらの工夫で年間35億円ほど獲得できるようになりました。

「資料5」には、各部局別の活躍度がわかるようにしています。企業との連携ですとほとんどが理系。補助金は全学に及ぶようになっております。

その他、府立大学の現状や他大学との比較の資料等を添付しております。

■ 質疑応答

(新大学構想会議)

学術研究院のところでダブっている先生はいるのですか。

(大阪府立大学)

ここではありません。資料では主担だけを書いたので、真ん中(学術研究院のところ)は

ダブっていません。

（新大学構想会議）

真ん中の学術研究院の合計を足すと、708名教員がいるということ。

（大阪府立大学）

そうです。

（新大学構想会議）

（資料2 - の学術研究院の第4学群の）「戦略的研究部門」とは何か。

（大阪府立大学）

多いですね。ここは、文部科学省の振興調整費のテニュアトラックという制度を活用し、そこで戦略的に雇っている人が今、13名。任期付きで特別講師という形で、研究のパーセンテージが80%ぐらいで、ちょっとだけ講義をさせます。そういうスターを育てるということで戦略的研究部門に配置しています。

（新大学構想会議）

これは外部から雇ったわけではなくて。

（大阪府立大学）

外部です。インターナショナルに雇っています。外国人の方もいます。

（新大学構想会議）

テニュアトラック。雇用は時限ですか。

（大阪府立大学）

時限です。5年で。金額で言うと、10何億とか。

（新大学構想会議）

府大で雇用したら、この人はずして、もともと府大とするのか。

（大阪府立大学）

そうです。（教員数に）入っていますから。

（新大学構想会議）

地域連携研究機構は教育が主ではないということですか。

（大阪府立大学）

教育が主ではないです。

（新大学構想会議）

高等教育は教養教育で、下の3つ（地域連携、国際交流、戦略的研究の各部門）は教育が主ではないと。

（大阪府立大学）

そうですね、どっちかというとなっています。

（新大学構想会議）

それで、学域・大学院の設置審議会の定数では外しているのですか。

（大阪府立大学）

違います。基本的には、大学院・学域等の設置審議会への申請の際には、専任教員としてすべて振り分けなければなりませんから、学術研究院としては出てこない。

実際に設置申請しましたが、各学域の専任教員としています。例えば地域連携部門の先生がどこかの学域の専任教員として出てくることはあります。

（新大学構想会議）

それでも、戦略的研究の人は違うと。

（大阪府立大学）

テニュアトラックの人は入っていません。教育担当のところには入っていない。全く別扱い。

（新大学構想会議）

高等教育推進部門というのは教養担当というか共通教育担当ですから、どの大学でも設置審のときには、入っている。あるいは全学共通担当で入っている。地域連携は微妙なところ。

（新大学構想会議）

教員の所属組織を「学術研究院」という形にしたということは、ここで定数管理していく、という理解でいいでしょうか。

（大阪府立大学）

昔は学部と研究科という2階建てでしたので、そこにきっちり定数が配置されていました。それで、こういう仕組にしたときから、学群で何名とかいう数字は今は持っておりません。大学全体で708とか、全部で大学がコントロールするという仕組にしています。

（新大学構想会議）

お伺いしたいのは、具体的な人事が例えばどこかの学系、学群の先生が定年退職されたとき、誰かを入れなくちゃならない時に、それは総枠としての人数及び将来の学部等の方向性で人事が検討される。そのときの考え方としては、どこからその発議があって、やっていくのか。

（大阪府立大学）

一つは研究科から発議してもらいます。また学系からしてもいい、それから学域からしてもいい、という風にしています。それで出てきたときに、研究科と学系と学域で必要であれば調整会議をして、そこでこの人はこうしましょう、となるようになっています。発議はどこからでもできることにしています。

（新大学構想会議）

後は、教授会に当たるものってというのは、どこでの会議になるのですか。

（大阪府立大学）

研究科には当然あります。研究科会議というのが。ここがずっとキープしないといけないので、大学院がまだ残してありますから、ここが強いと言えは強いのですが。学術研究院にも、呼び方は違いますが、教授会と同じものを置くというのが話し合いの中で決定されていますので。それから、学域にも教授会がございます。

（新大学構想会議）

学校教育法上は、教育に責任を持つ組織として大学院、名前は研究科でもいいが、学域には義務として置かないといけないので、運営上、学術研究院にまとまりとしてあっても悪くないけど、学域と研究科に教授会がないということはありません。

（大阪府立大学）

そういうことです。教員会議と呼んでいますが、先生おっしゃるところの法律にのっとってやっています。

（新大学構想会議）

教育公務員特例法適用のときは、人事をやっていたが、今はなく、このグループの方の人事介入は無いということか。

（大阪府立大学）

そういうことです。

（新大学構想会議）

要するに（資料の）真ん中のところ（学術研究院）は融通無碍だが、両端（大学院と学域）は教育責任があるので、届出段階で担当教員はきっちりフィックスして（固めて）と、そういうことですね。総数が合えばいいということ。

（大阪府立大学）

設置審議会に出すときにはそういうことです。

（新大学構想会議）

教員組織については、筑波大学はもともとこれに近いことをやっていたのですが、もっと（教員の担当の）線が入り乱れていて、会議が出来ないと。一人の教員が三つ会議に出ないといけない。それで、教員の顔ぶれが違うから訳が分からなくなる。

（大阪府立大学）

頻度もありますが、そういうことなので非常に教員からもクレームがあります。ここは苦しみながら、こういう方法しかないということでやって参りましたので、委員から最初に説明していただいたように、大学院がすべてうまく部局化できていれば違うやり方もありましたが、それができなかった。全部が部局化できていなかった、理系の3つだけ工学と理学と生命環境だけは部局化していました。

（新大学構想会議）

なかなか運営の妙が難しいところで、九州大学の時は、制度的にはこうやったが、学術研究院にあたるところのカテゴリーと、学部や研究科がほぼ一致していた。

何が問題かという、新しい研究組織を作るときは真ん中をいじらないでできる。例えばDNA専門の生命科学とかを作ろうとしたら、医、理、情報、農学部からDNAの専門を引っこ抜いてきて所属させないといけないので、そうしたら、各学部のコアが消えるので、逆にいえば、そういう教員集団を作らないで、DNA専門の大学院、動植物、人間、細胞論、情報処理という各研究院から連れて来て教育プログラムを作った。後は、欠員が出たときにどこから補充するかというのでしょっちゅう揉めたりはあったが、それ以外はうまくいった。生命学府と感性学府。二つだけは先生の固定した組織無しで作った。

（新大学構想会議）

組織論はさておき、実態が全然わからない。バーチャルとリアルな別、建物とか予算のリアルな姿がわからない。組織論はおいておいて、今の姿、物理的に建物はあるのか、機材を持っているのか、予算がついているのか、専門の人が物理的に机を持ってそこで仕事をしているのかお聞きしたい。

国際の部分、国際交流推進機構は、実質はバーチャルに近いと思うが、部屋はあって専任の人もいて、その人を中心にプロジェクトをバーチャルに実施しているということですか。

それから、地域連携研究機構は配布のパンフレットを見ると、センターとあるが、これはそれぞれ部屋があるのか。

宿題にさせてほしい。ここのパンフレットの組織図にあるものと無いもの、バーチャルとリアルをわけて整理（建物、人、予算）した資料と、なぜこういうセンターをくくりだす必要があるのか、もともとどこかの学部にあったのか整理、バーチャルのものは何か研究資金の受け皿で作ったかと思うが、リアルなものについてはどうか。

（大阪府立大学）

元々あったものと、力を入れようと集中と選択したものです。

（新大学構想会議）

ここが何か細分化して、小さなものがパラパラしてしまって、それを無理やりくくっている印象を私はもった。市大でもそういう印象をもった。どんどん分けて分けて、さらにバーチャルなものもあり、それをくくっていて、全体としてよくわからない印象。

（大阪府立大学）

そうです。委員会組織であったものを、専任にしようとかセンターにしようとしたものです。

（新大学構想会議）

その経緯を。センターとオフィスと理解していいか。何とかセンター、何とかオフィスの類を整理したものが必要。建物、予算、人がいるいない。それから目的は何なのか。それぞれ中身を聞いていると時間がなくなるが、例えば、地域連携に放射線研究センターがあるが、普通に考えれば工学部の中でいい。わざわざ分けて、束ねる意味があるのか。名前にこだわるわけではないが、地域連携と放射線はほとんど関係ないという印象。行き掛かり上の理由はあるとしてもわからない。

改革の手続き、手順、それから制度でこうなったとかはいいが、人、モノ、金の所在の場所として合理的、合理性もったものか私は理解できない。

ところで21世紀科学研究所は、実質バーチャルだと思うがどうか。

（大阪府立大学）

半分、第1群はバーチャル。

（新大学構想会議）

部屋があるのはどれか。

（大阪府立大学）

例えば、植物工場研究センターは、予算を経済産業省と農林水産省から獲りましたので、建物まであります。

E V開発研究センターは、今は部屋だけを作りました。あとは、B N C T研究センターは今回予算を獲得し、新しく建物を作ります。

（新大学構想会議）

同様に整理してほしい。部屋があって、実質そこに人がいるのかどうか。専任か兼任か。

（大阪府立大学）

これらを含めてご指摘の資料を作成します。

（新大学構想会議）

テニユアトラックは非常勤か。有期か、配置は散らばっているのか、何をやっているのか。

（大阪府立大学）

常勤で任期がついています。ナノ科学の分野で募集しており、まとまった場所、ナノ科学・材料研究センターに配置しています。

（新大学構想会議）

他は全部兼務の人達。兼務だけど建物がある。それは研究室は別に持っていて、この実験のために、集まってくるということですか。

（大阪府立大学）

プロジェクトを獲りにいって、獲れたところだけが建物があるという感じです。

（新大学構想会議）

マトリックスを作ってもらって、専任か兼任か。研究室があるかないか。

（新大学構想会議）

学術研究院の高等教育推進部門というのは、要するに昔の教養部の先生みたいな雰囲気機関と考えていいか。右にもあって左にもあって、機構イコール第4学群。ですから比較的教養の先生的な人が多いのですかね。

（大阪府立大学）

人数をみていただいたら、ここ（高等教育推進部門）と右（高等教育推進機構）とはちょっと違います。同じかと言われたらちょっと違います。

（新大学構想会議）

ここのリストいただけますか。どんな分野の先生がおられるのか。既存の表はないですか。

（大阪府立大学）

（法人事務局担当者に確認）今すぐには、できません。

（大阪府立大学）

理科系の基礎教育の先生、あと語学、英語、フランス語とかドイツ語とかの先生、あとは教養の先生方が全部で40人、高等教育推進部門におられて、あとは第2学群の数学系の先生が高等教育推進機構の主担当になっています。

（新大学構想会議）

例外的なことは横においておいて、高等教育推進部門は高等教育推進機構のメンバーとほぼイコールと考えていいか。

（大阪府立大学）

はい。一部、数学等は別にして。

（新大学構想会議）

では、高等教育推進部門の教員40人は、他の学群、文科系なら第1学群の人文科学系や社会科学系にわけられなくもない。なぜこの40人は、第1から3学群に割り振らなかったのか。

それから、制度上は、第1から3学群の教員でも教養教育に従事している人もいる。

なぜ、この40人、第4学群に特出ししているのか。

さっきの地域連携、国際交流、戦略的研究部門は右の機構にも対応しているし、特殊なものだろうと理解できるが、この教養学部的なものをなぜ、右側と左側に両方かというと、真ん中になぜ残したのか。どういう基準で残る人とわけたのか。

（大阪府立大学）

全学共通（教育）のコアになる先生は、きっちりやろうというストーリーで作ったのでここに入れました。

（新大学構想会議）

右の学域を設計する思想としてはすごく理解できるが、だからといって、第4学群の中に高等教育推進部門を置く必然性があるのでしょうか。

（大阪府立大学）

これは苦しみながら（検討の過程で）、機構の中に一緒にしようと思いました。

（新大学構想会議）

名前・リストがあればよくわかると思うが、たぶん、第1や第2にも、よく似た人はいらぬのではないか。教育組織と教員組織をわけるといふなら、バラバラにするべきであつて、なぜこの40人が、1・2・3にいないのか。専門分野で分けたのが1・2・3ですよ。逆に言うと、1・2・3は何なんだということ。どちらかといふと専門ですよ。高等教育専門の人ではないですよ。教え方のプロではですよ。語学とか数学とか。そういう人たちは研究者という意味では、1・2・3のどこかに割り振れたのではないか。そうしなかつた理由は何か。

（大阪府立大学）

非常に多くの教員を学群に分類するときに、実際にはかなり大学院の組織の影響を多大に受けており、完全にきっちり専門分野に分けられている訳ではありません。

高等教育推進部門の教員は、本来はマネージャー。全学共通教育をマネジメントできる人材を配置したいと思つており、将来的には人数も少なくなるだろうと考えています。

今はさまざまな経緯もあつて、学術研究院を作つて、作り方も学内の議論もありこういう形になっています。

高等教育推進機構には他の各学群から主担当になつてゐる教員もかなりいて、この高等教育推進部門の教員がそのマネジメントを行っています。

もともと、高等教育推進機構は、法人化の平成17年度に総合教育研究機構として83名の専任教員でスタートしたが、そのことによつて、学内的に学士課程教育における共通教育と専門教育の分離を招いてしまい、その反省も踏まえ、今回は全学で共通教育を行う仕組みとしています。理念としてはそういう形で作っています。

（新大学構想会議）

二つにわかれていまして、国立大学は要するにコーディネータの高等教員論をやる先生が高等教育にいて、全学の先生をプレーヤーにしてプログラムをやるということをやつてゐるが、全部失敗している。

要するにリレー方式になつており、5年に一回など。権限もない。カリキュラムはしっかりしているが、それに魂を込める先生がいない。語学以外は。それで教養復活という流れが出始めている。

これでもし、コーディネーターを数人にして、全部をやろうとしたら国立大学で失敗した例と同じになる。高等教育研究機構を作つてカリキュラムと担当者を入れるというのは一つの例。

おっしゃるやうに、これがまた研究のところまで同じものを作るのがいいのか。研究者はこういうふうに分けて、そのかわりその人たちの教育責任は共通課程ですよとするのか。またむづかしいところで、なぜ私たちだけ、共通課程なのかとなる。

北九州市立大学はむしろ明確に分離した。学部から離れて。でないと責任もつてやらない。何年に1回では。九州大学は基幹研究院か何かで戻そうとしている。あきらかにこの大学でも国立大学は失敗している。結局自分がまわつてきたときは、非常勤講師。（学生が）1、2年に入ってきて、もうひとつ専任でない人に習うと非常にがっかりする。まだ高等学校の焼き直しならまだしも、非常勤講師では。これは、永遠の課題であり、トライアンドエラーをやっている。

（新大学構想会議）

そもそも大学の人事は細分化すればするほど硬直化しますよね、一般論として。そ

う中で、基礎教養はある程度重視して、枠組みの中で人材を確保しないとイケない。そのため、枠組みの管理をしているということでもいいのか。

（大阪府立大学）

そのとおり。定数の管理は大学全体で行っており、それぞれの部門に任せていません。

（新大学構想会議）

人事は学域をベースにしてやるのですよね。学域の教授会でやるわけじゃないです。プログラムをきちんとやるために、穴が開いたらどこを埋めるかで決める。その人が研究院でどこにいくのかは別の話。

（新大学構想会議）

資料5の「主な産学連携の取組み」の資料で、共通教育を担当する高等教育推進機構の共同研究の例示で、共通教育とは関係がなさそうな「がん細胞の研究」があり、違和感を感じるが。

（大阪府立大学）

高等教育推進機構の中に、こういうプロジェクトをとりにいける先生がいるわけです。他の委員からご指摘があったように、みんな教養教育ができるけれども、その人たちの専門もみんな教育学ではありません。この先生も教育学が専門ではありません。いろんな研究部門の専門を持っている人を40人集めて、全学のマネージャーしてもらっています。

そういう先生が、今は異動したが、看護で非常に外部資金、プロジェクトをとれる先生が1人いました。専門は看護ですけど、情報系で全学教養教育を担ってもらっていました。

（新大学構想会議）

教養教育については、こういう議論が戦後ずっとあり、「えいや」で改革をやってきた。教養の専門をなくしたから。シェークスピアをやっていて、英語の先生がいっぱいいいた。世界的権威でも。それを無理やり文学部の英文の先生にするなどしてきた。その結果、誰も責任もってやらなくなった。教養課程のカリキュラムはあるが魂こめる人がいなくなっている。やり戻しができてきている。

（新大学構想会議）

教育と研究があって、そもそもですが大学の先生は研究が主なのですか。

（新大学構想会議）

二つあって、シェークスピアの研究の弟子を育てることと、それと、どこの学部に限らず英語教育が必要。教育は教養部を教育し、大学院でも教育し、研究は一流というのが理想だが、ところが教養はめんどくさい。各大学で苦労している。文部科学省はすっきりさせちゃったが、ガタガタになってきた。公立大学だけはやり戻しがきている。私はゆとり教育と教養部解体が二大失敗だと思う。そのやり戻しの方式が何が最適かは府大方式もあるし、いろんな大学方式もあって、まだ定着していない。

（新大学構想会議）

教養部問題は逆説的な意味があることはわかった。しつこいですが、地域連携研究機構のセンターは、なぜ各学群、専門分野のセンターとならないのか。特に放射線研究センタ

ーが気になるが。

（大阪府立大学）

歴史的な経緯があり、旧放射線中央研究所の教員は従来教育には携わらない部門でしたが、今回こういった教員組織とすることで、地域連携部門に所属し、工学域とか、各学群にも教えにいくことができるようにしました。歴史的経緯があって、ソフトランディングするために、ステップを踏んでいます。

（新大学構想会議）

教育しない専門家は、そもそもここにいないと考えていいのか。要は、全員教育やるという前提のもとに第4学群、地域連携は成立していると。

（大阪府立大学）

地域連携の人は主担は地域に密着した生涯教育だが、副担はどこかの学域の科目を担当しています。

（新大学構想会議）

それはいいが、文部科学省側からみると、学域のところに高等教育推進部門の先生も全部いれているのか。

（大阪府立大学）

全部は入れていません。

（新大学構想会議）

テクニカルな話ではなく、地域連携というオーガニゼーション（組織）がオーガニゼーションとして意味があるのかという根本的な話。普通の発想、昔の大学なら、学部所属の何とかセンター、法学部附属の何とかセンターとなる。大学にしろ、役所でも会社でも、普通そうだと思う。何とかセンターだけ切り出してそれを束ねる意味がよくわからない。中央省庁で言えば、国交省のダムの研究所と、科技厅の原子力の研究所と、児童教育の文科省の研究所が全部一緒になって、例えば日本国再生センターと名乗っているようなわけのわからないものになっている。

（大阪府立大学）

地域に密着しているものだけになっています。あとは切りました。女性学研究センターは地域に密着したものです。

（新大学構想会議）

依然、センター同士の内容がまったく関係がなく、むしろ学群の専門領域との関係のほうに密接ではないか。学域と同じレベルにあるのはよくわかる。学術研究院として地域連携というものが成立しないのでは。高等教育と同じ議論。地域連携の専門家は確かにたまにいますが、村おこしのプロとか。そうではない。国際交流、戦略はわかるが。地域連携が真ん中にある合理性がわからない。単にその他では。理念はあるのか。学域のところに理念があるのはわかるが。これは、地域連携がおろそかにならないようにという教養とおなじ発想ですか。

（大阪府立大学）

その中の核になる人がここにいます。さっきと同じ理論です。

（新大学構想会議）

何とかセンターを束ねる意味がわからない。プロジェクトではない。地域連携という言葉が中の実態から乖離していると思う。

（大阪府立大学）

マトリックスを書いて提出します。

（大阪府立大学）

教員評価については、学術研究院の学系部門が単位であり、地域連携研究機構の教員は地域連携のミッションに込んでいるか評価を行うために、組織として地域連携部門を作っています。

（新大学構想会議）

公立大学のそもそも論にもかかわるのでしつこく議論したい。このパンフレットを見ると、下のほうにまいど1号とかいろいろあり、地元系の研究ですね。産学連携だけど地元と一緒にやっている。こういうことを特に強調したいという気持ちはわかるし、府立大学のミッションとしてあるのでしょうか。右側の研究機構の実績として書かれるのはわかるし、違和感はない。でも、これらのセンターがここに所属しているのかわからない。

（大阪府立大学）

先ほどの資料を作成して説明します。

（新大学構想会議）

いろんな大学が合体したときにこういった部門に教員を集めて、新たにオープンユニバーシティとして、徹底的に社会人向けの組織を作って、そこに専任の教員を貼り付けたのが都立大方式。

（大阪府立大学）

都立大学の場合は、ここにいた人が全部やっています。私どもは核になってほしい人を集めて、実際に担当するのは全学の人。中途半端かもしれない。

（新大学構想会議）

哲学が一貫していないのかもしれない。クリアでないところは再編の対象になるかもしれない。

（新大学構想会議）

ざっくり言えば、府大と市大では、府大は教育のミッションが強いが市大は研究のミッションが強いような気がする。教育をするミッションと研究をするミッション。

（大阪府立大学）

そういうこともないのでは。全学教育は本気でやってくれる人をつくらないとだめ。

理系の場合は教育と研究は切り離せません。私たちはそこを強く出しています。理系と

文系では違うところはある、市大の場合にはそういうところが強くでているのでは。

（新大学構想会議）
終わります。

以上。